

# 環境活動レポート

---

(対象期間：H22. 4. 1～H23. 3. 31)

2011年05月23日

東京都府中市緑町1-16-1 松山ビル

株式会社クレスト



－ 目次 －

1. 事業活動の概要
    - (1) 事業者名および代表者
    - (2) 所在地
    - (3) 環境管理責任者の連絡先
    - (4) 事業内容
    - (5) 事業所規模
  
  2. 環境方針
  
  3. 環境負荷の現状
  
  4. 環境目標とその実績
    - (1) 目標と活動内容
    - (2) 環境への負荷 削減実績
    - (3) 今年度以降の目標
    - (4) 環境目標の担当者
  
  5. 主要な環境活動計画の内容
    - (1) 総エネルギー投入量削減
    - (2) エコマーク製品購入の促進
    - (3) 紙購入量削減
  
  6. 環境活動の取組結果の評価
    - (1) 総エネルギー投入量削減に関する取組結果
    - (2) エコマーク製品購入の促進に関する取組結果
    - (3) 紙購入量削減に関する取組結果
  
  7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
    - (1) 違反
    - (2) 訴訟等
  
  8. 代表者の評価および見直し
-



## 1. 事業活動の概要

### (1) 事業者名および代表者

株式会社クレスト

代表取締役 大前 明

### (2) 所在地

〒183-0006

東京都府中市緑町1-16-1 松山ビル (2009年8月に移転)

### (3) 環境管理責任者の連絡先

ソリューション技術部 齊藤 裕之

TEL 042-364-1718 FAX 042-330-8053

### (4) 事業内容

コンピュータ関連のハードウェア、ソフトウェアの設計開発および評価検証

### (5) 事業所規模

床面積 : 287 m<sup>2</sup>

従業員数 : 34名

## 2. 環境方針

### 環 境 方 針

当社は、地球環境保全が人類共通の重大な責務であることを認識し、経営の最重点課題の一つに位置付けます。

当社は、情報処理関連の設計開発業務を行っており、その業務において実施し得る全ての環境保全活動を以下に示し、推進します。

1. 事業活動の全領域で、省資源・省エネルギー・資源循環・エコライフなどに配慮します。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、環境経営システムを継続的に改善します。
3. 環境関連法令等を遵守します。
4. 環境目標を設定し、効果的な取組みを行います。

2005年1月11日

株式会社クレスト

代表取締役 大前 明





### 3. 環境負荷の現状

#### 環境負荷の自己チェック結果

		2008年度	2009年度	2010年度
エネルギー投入量	総量 (MJ/年)	433,995	429,826	452,269
物質投入量	総量 (Kg/年)	63	196	211
水資源投入量	総量 (m <sup>3</sup> /年)	—	—	—
二酸化炭素排出量	総量 (Kg-CO <sub>2</sub> /年)	19,491	20,161	21,092
廃棄物等排出量	総量 (Kg/年)	543	680	794
排水量	総量 (m <sup>3</sup> /年)	—	—	—

水資源投入量および排水量については、貸主の意向により事務所一括で処理しているため、フロア単位での数値が把握出来ないため対象外とする。

物質投入量については、昨年度は社則の全面改定があり、社員全員に対して社則を印刷したため増加してしまった。また、廃棄物等排出量は、前年度にL S I関連の開発部門が廃部になった都合で機密書類の全面廃棄したため、廃棄物等排出量が増加してしまった。二酸化炭素排出量については、昨今の経済状況の影響で、地方勤務の管理者が2010年1月より車にて東京で営業を行った関係で燃料の使用量が増加してしまった。

### 4. 環境目標とその実績

#### (1) 目標と対策

##### ①. 総エネルギー投入量削減 (電力の削減)

目標：本年度 1%削減 (3年後 2.0%削減)

対策：照明の常時消灯及び必要時点灯エリアの確認徹底  
 空調の適温化 (貼紙を実施し、対策実施)

冷房： 28℃平均以上

暖房： 22℃平均以下

最終退社時の電源 OFF 徹底 (チェックリストの利用により 100%電源 OFF を実施)  
 退社時、PC のディスプレイ電源の完全 OFF を徹底。(省電力はNG)

##### ②. 物質投入量削減 (紙購入量の削減)

目標：本年度 1%削減 (3年後 2.0%削減)

対策：縮小/両面/集約印刷の徹底 (定期的な指示および貼紙により実施)

FAX 印刷量削減 (機密印刷を徹底し、不要な印刷を削減)

認定関係のペーパーレス化



③. 二酸化炭素排出量の削減

目標：本年度 1%削減（3年後 2.0%削減）

対策：社用車運用手順書の遵守徹底

ガソリン節約運転の検証ビデオにて、省エネ運転に対する意識付けを実施。

④. 水資源投入量及び排水量の削減

目標：出来る限り水使用量、排水量を削減する。

対策：出来る限り水使用量を少なくする。

(2) 2010 年度環境目標、実績、達成度

	2010 年度目標 (2010/4～2011/3)		2010 年度実績 (2010/4～2011/3)		達成度
	目標/ 1 人	実績 (17 人)	実績/ 1 人		
エネルギー投入量 総量 (MJ/年)	28354.3	452,269	26,604	○	
物質投入量 総量 (Kg/年)	4.116	211	12.4	×	
水資源投入量 総量 (m <sup>3</sup> /年)	—	—	—	—	
二酸化炭素排出量 総量 (Kg-CO <sub>2</sub> /年)	1273.4	21,092	1,241	○	
廃棄物等排出量 総量 (Kg/年)	35.476	794	47	×	
排水量 総量 (m <sup>3</sup> /年)	—	—	—	—	

※ 採用した二酸化炭素の排出係数は、従前の 0.378 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh)。

エネルギー投入量、二酸化炭素排出量の 1 人当たりの目標については達成できた。物質投入量については、昨年度は社則の全面改定があり、社員全員に対して社則を印刷したため増加してしまった。また、廃棄物等排出量は、前年度に L S I 関連の開発部門が廃部になった都合で機密書類の全面廃棄したため、廃棄物等排出量が増加してしまった。

水資源投入量および排水量については、入居ビル管理会社が全フロア一括で処理しており、フロア単位で数値を把握することは不可能であるため、記載していない。

(3) 今年度以降の目標（社員一人当たりの対前年比削減率）

		2011 年度	2012 年度	2013 年度
エネルギー投入量	総量 (MJ/年)	26338.0	26206.3	26075.3
物質投入量	総量 (Kg/年)	12.3	12.2	12.2
水資源投入量	総量 (m <sup>3</sup> /年)	—	—	—
二酸化炭素排出量	総量 (Kg-CO <sub>2</sub> /年)	1228.3	1222.2	1216.0
廃棄物等排出量	総量 (Kg/年)	46.7	46.0	45.8
排水量	総量 (m <sup>3</sup> /年)	—	—	

事務所常駐者人数が毎年変化しており、総量での目標を立てづらい為、一人当たりの数値で削減率を把握することとする。また、水資源投入量および排水量については、入居ビル管理会社が全フロア一括で処理しており、フロア単位で数値を把握することは不可能であるため、削減の数値目標を設定するのは困難であるため除外する。今回未達成だった物質投入量と廃棄物等排出量については増加傾向にあるが、削減率については全項目で前年度実績から 1%削減を目標とした。

環境目標及び環境活動計画

環境目標	責任者	目標達成のための方策・活動		
		2011 年度	2012 年度	2013 年度
グリーン（エコ）購入を推進	社長、 斉藤	受入検査を導入（強化）する。 エコマーク製品、グリーンマーク製品の購入を優先する 再生素材使用製品、廃棄物利用製品を優先的に購入する 省エネ型の製品の購入を優先する	同左	同左
化学物質使用量を削減する		化学物質は使用していないため方策から除外	同左	同左
サービスのグリーン化の推進	社長、 斉藤	認定関係のペーパーレス化、低消費電力 PC の積極的な導入、PC ディスプレイの未使用時 OFF の徹底、エアコンの温度管理の徹底による省エネの推進	同左	同左

(4) 環境目標の担当者

総務部門：主任 宮澤 亜希子  
 技術部門：部長 斉藤 裕之



## 5. 主要な環境活動計画の内容

今までの活動内容は継続し、更に以下の様な活動を実施する。

### (1) 総エネルギー投入量削減

- ①. 新規購入 PC は既製品（メーカー品）とし、省電力の物を導入する。
- ②. 照明の不要箇所を検討し、不要箇所は常時消灯又は必要時点灯を徹底する。
- ③. 蛍光灯を総チェックし省電力タイプへ移行する。また光量がさほど必要無い場合は蛍光灯をはずす。
- ④. 空調設定を適温化する。
- ⑤. 出退勤管理ソフトウェアを利用することで、最終退社時の安全確認用チェックリストを自動作成し、電源 OFF の確認忘れの無い様、チェックを徹底する。

### (2) エコマーク製品購入の促進

- ①. 消耗品等の購入推奨品リストを作成する。
- ②. 新規購入時にはエコ商品を購入するよう徹底する。

### (3) 物質投入量（紙購入量）の削減

- ①. 縮小コピーの徹底
- ②. 両面コピーの徹底
- ③. 集約印刷の徹底
- ④. FAXはPDF印刷することでペーパーレス化し、必要な物のみ印刷
- ⑤. 機密印刷設定により、不必要な印字を削減。
- ⑥. 最終退場時チェックリスト同様、出退勤管理ソフトウェアを使用することで勤務表を自動生成し、タイムカードのペーパーレス化を実施。

### (4) リサイクルの促進

- ①. シュレッダー、段ボール、新聞紙等の紙資源ゴミはリサイクルを徹底する。  
(缶、ペットボトルは分別しているが、廃棄物回収業者の区分は不燃ごみ扱い)
- ②. ペットボトルのキャップについては、個別に回収しボランティア団体へ寄付する。



## 6. 環境活動の取組結果の評価

### (1) 総エネルギー投入量削減に関する取組結果

- ①. 新規購入 PC を既製品（メーカー品）とし、省電力の物とした。
- ②. 蛍光灯の交換に使用する蛍光管の購入を省電力タイプとした。
- ③. 光量のチェックを実施し、光量がさほど必要ない場合は蛍光灯の間引を実施。  
さらに常時消灯及び必要時点灯エリアを設定。
- ④. 空調設定を適温化した。
- ⑤. 最終退社時のチェックリストの運営を継続実施し、出退勤管理ソフトウェアを使用して、  
チェックし忘れを防止する対策を実施。

### (2) エコマーク製品購入の促進に関する取組結果

- ①. エコ商品購入推奨品リストを作成済み。
- ②. エコ商品の購入を徹底するよう、会議にて徹底の依頼を実施。

### (3) 紙購入量削減に関する取組結果

- ①. 縮小コピーの利用について、会議による徹底の依頼を実施。
- ②. 両面コピーの利用について、会議による徹底の依頼を実施。
- ③. 集約印刷の利用について、会議による徹底の依頼を実施。
- ④. F A X受け取り時の排紙を停止し、選別印刷することを徹底した。
- ⑤. 機密印刷をメール及び会議による徹底の依頼を実施し、印字ミス等の不要な用紙の  
印刷を削除するよう徹底。
- ⑥. 上記最終退場時のチェックリストと共に出退勤管理ソフトウェアを作成し、打刻式  
タイムカードを廃止し、最終退場時チェックリストと共にペーパーレス化を実施。

### (4) リサイクルの促進

- ①. 缶、ペットボトル及びシュレッダー等の資源ゴミの分別表を作成し、フロアへ貼付。
- ②. ペットボトルのキャップ用の専用回収ボックスをフロアへ設置。

### (5) その他

- ①. ゴミ回収時の分別を徹底するため、ゴミの分別表を作成し、フロアへ貼付。

## 7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

遵守評価の結果、環境関連法規制／その他要求事項への違反事項はありませんでした。  
また、関係機関等からの法規制違反の指摘及び訴訟などの請求はありませんでした。



## 8. 代表者の評価および見直し

### (1) 昨年度の結果に関する評価

昨年度は1人当たりの物質投入量・廃棄物排出量について目標を達成できなかった。これは社則の全面改定による大量印刷、および不要になった紙文書のシュレッダーごみの廃棄によるものである。環境負荷を低減するためには、紙使用量の削減やシュレッダーごみの削減は必須である。ペーパーレス化をさらに促進することで削減に努力して頂きたい。

また、二酸化炭素排出量や総エネルギー投入量については、削減目標を達成できたため、来年度以降に関しては若干削減レベルを緩やかに設定している。

削減目標を上回る実績を出せる様に新しい手法・技術を見極め、可能な限り導入して努力して頂きたい。

### (2) 本年度の見直すべき項目

#### ①. 物質投入量削減、廃棄物排出量削減の徹底

→ 社員規則や認定関係といった紙を大量に消費または排出する文書については、PDF印刷、電子データ管理することで、ペーパーレス化を推進して頂きたい。

#### ②. 二酸化炭素排出量削減、総エネルギー投入量削減の強化

→ エコ運転の徹底や公共交通機関による移動の推奨。

低消費電力PCの積極的な導入、PCディスプレイの未使用時OFFの徹底、エアコンの温度管理の徹底。

※日常出来ることに対する徹底した対策を実施すること。